

採用

診療科名	氏名	採用日	診療科名	氏名	採用日
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	桂 裕紀	3月16日	研修医	大石 香奈	4月1日
呼吸器内科	阿部 岳文	4月1日	研修医	大坪 紀慧	4月1日
呼吸器内科	甲斐 翔太郎	4月1日	研修医	加藤 崑智穂	4月1日
消化器内科	星野 勝一	4月1日	研修医	倉脇 史郎	4月1日
循環器内科	中嶋 敦生	4月1日	研修医	名波 勇人	4月1日
小児科	鶴野 裕一	4月1日	研修医	西坂 佑香	4月1日
小児科	村田 乃理子	4月1日	研修医	根橋 健	4月1日
精神科	市川 太祐	4月1日	研修医	福間 泰斗	4月1日
呼吸器外科	三由 僚	4月1日	研修医	三神 瑞樹	4月1日
皮膚科	栗山 幸子	4月1日	研修医	水野 陽介	4月1日
泌尿器科	松田 歩	4月1日	研修医	渡邊 健太	4月1日
産婦人科	神藤 里枝	4月1日	研修医	安東 宇揚	4月1日
口腔外科	野里女 明代	4月1日	研修医	内山 友梨	4月1日
研修医	伊東 侑治郎	4月1日	研修医	綿貫 雅之	4月1日
研修医	井上 結貴	4月1日			

退職

診療科名	氏名	退職日	診療科名	氏名	退職日
臨床検査科	山本 真志	3月11日	心臓血管外科	田中 宏和	3月31日
呼吸器内科	草ヶ谷 英樹	3月31日	泌尿器科	井口 亮	3月31日
呼吸器内科	土屋 一夫	3月31日	産婦人科	太田 好穂	3月31日
消化器内科	諏訪 兼彦	3月31日	眼科	曾根 雄一郎	3月31日
消化器内科	白鳥 安利	3月31日	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	田中 美穂	3月31日
循環器内科	後藤 貢士	3月31日	口腔外科	柴田 真里	3月31日
循環器内科	石田 真理奈	3月31日	研修医	笹原 太志郎	3月31日
精神科	櫻井 類	3月31日	研修医	菅原 康介	3月31日
外科・消化器外科	小西 大輔	3月31日	研修医	澤村 直彦	3月31日
外科・消化器外科	高本 尚弘	3月31日	研修医	田中 宗和	3月31日
心臓血管外科	水野 裕介	3月31日			

体温計



静岡市立静岡病院は
平成28年4月1日、
地方独立行政法人として
あらたな第一歩をふみだしました



- 外来診療時の受付時間 8:30～11:30 (一部、受付曜日や時間が異なる診療科があります)
- 担当医は、都合により変更することがあります (土・日曜日・祭日は休診です)
- 緩和ケア外来につきましては、地域医療支援室へお問い合わせください

急病時の連絡先

- 救急外来 054-253-3125 (内線 5120) と
- 心臓救急 054-252-4399 は、24時間 受け付けています

人間ドック

予約制、当日結果説明、昼食付

脳ドック

予約制 (予約受付 月～金 10:30～16:00) 毎週木曜日実施、当日結果説明

健康診断

予約制 (予約受付 月～金 10:30～16:00)
なお、定数内の場合、当日受付可 (当日受付 月～金 8:30～10:30)

予約と受付は、市民健診センターへどうぞ
054-253-3125 (内線 5350) < FAX は 253-3237 >

曜日	月	火	水	木	金
担当医	望月	望月	望月	交替	望月



病院のロゴマークが誕生しました

平成28年4月1日、静岡市立静岡病院の地方独立行政法人化とともに、新たな病院のロゴマークが誕生しました。「全人的医療の実践」、患者さん、職員等の「人」。静岡市立静岡病院が最も大切にしている「人」をテーマに表現したマークです。「人」という文字のカタチをアレンジ、組み合わせることで、静岡の象徴である富士山、医療を表すシンボルとしてのクロスマークのイメージも表現しているマークです。



静岡市立静岡病院
SHIZUOKA CITY SHIZUOKA HOSPITAL



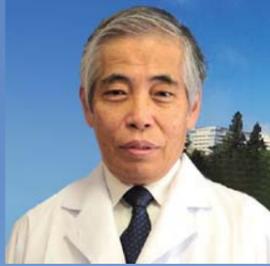
巻頭特集「地方独立行政法人移行にあたって」

外来1階ロビーをご案内します

- 外来担当医・特殊外来一覧表
- 医師人事異動情報
- 病院からのお知らせ

地方独立行政法人移行にあたって

地方独立行政法人 静岡市立静岡病院 理事長・病院長 宮下 正



はじめに

市立静岡病院は、平成 28 年 4 月 1 日をもって、静岡市役所本体から独立して、地方独立行政法人静岡市立静岡病院として、あらたな歩みをはじめることになりました。一体どこが変わるのか、よくわからないという言葉を目にします。あらためて、「体温計」紙上で、わたしたちが、そこにかかる思いをお伝えしたいと思います。

1. 独法化の意味するもの

今回の独法化の意味するものは、病院の新しい名称に含まれる、“独立”と“市立”のふたつのことばに集約されています。

まず、“独立”の二文字が示すのは、これまでの市役所内部組織としての制約から離れて、経営面、人事面で迅速・柔軟な対応ができること、またそのように行動していただきというメッセージだと受け取ることができます。もう一つの“市立”の二文字が示すことは、独法化した後も、あくまで静岡市が設立する公立病院であり続けるということ、つまり、救急医療・感染症医療・災害時医療など公立病院が担うことがふさわしい公共性については、これまでどおり、継続的に確保される、されなければならないということです。換言すれば、社会的共通資本として必要不可欠な役割は、公的な財政の枠組みも含めて、堅持されるということです。

医療費負担については、現行の国民皆保険制度、国が定める診療報酬制度に基づいて保険診療を行うわけですから、法人化したからといって負担が変わることはありません。

今回の独法化に際して、病院建物自体に変わりはありませんし、診療券の利用や窓口についても、これまでのものを継続します。むだな建て替えや、派手な化粧直しはしません。病院利用者の立場からは、あまり変わらないではないか、ということですが、それはそのとおりで、むしろ変わっては困るものではないかと思えます。

ちなみに、独法化とは直接関係はありませんが、本年 2 月 1 日から、これまで病院内の薬局で外来処方調剤をしていたのを、原則として、病院外の薬局で調剤して薬を受け取っていただくしくみに切り変えました。国の示す方向性として、病院の薬剤師は、院内調剤業務から、より入院患者さんに密着した病棟薬剤師としての役割にシフトして、その専門性を十分に発揮してもらいたいという要請に沿うものです。

2. 独法化中期計画とは

独法化を特徴付けるものとして、中期計画（第 1 期：平成 28 年度～平成 30 年度）の策定があります。これは、静岡市から示された目標に対して、病院は、このように応えますよという計画書です。そのなかで“地域医療を支える要としての病院”“公立機関としての病院”“継続性のある安定経営”ということについて、述べたいと思います。

(1) 地域医療支援病院として、他の医療機関、医師会と連携して、地域の医療を支えていきます。また、とくに公的病院として果たすべき役割は、政策医療としての役割で、救急医療、周産期医療・小児医療、県内唯一の第一種感染症指定医療機関（第二種を兼ねる）としての感染症医療、精神疾患を有する患者さんの身体合併症の治療などです。
(2) 「ハートセンター」における先進的な心・循環器疾患診療、「消化器総合センター」における内科・

外科の統合的な消化器疾患診療、手術支援ロボット、ダ・ヴィンチによる前立腺がん手術、リニアックによる放射線治療、平成 29 年度稼動をめざして PET-CT 導入等、地域がん診療連携拠点病院として期待される診療、その他多くの専門的な診療科を保有する総合病院の力を最大限発揮して、高度急性期医療を行います。

(3) 高齢化社会をみすえて、糖尿病、動脈硬化、高血圧症などの生活習慣病に対して、専門性の高い医療や予防医学の観点から講習会などの啓発活動を行います。

(4) 日本の保険医療機関は、本質的に非営利であることが大前提です。そのうえで、独法化の利点を生かして、効率的で、むだのない運営によって、持続性のある安定した経営をめざします。

以上が、中期計画の骨子です。

3. 変わるもの、変わらないもの、変わってはいけないもの — 縮小する社会、激動の時代をみすえて —

維新後まもない明治 2 年、追手町に創立された藩立駿府病院は、わずか 3 年後に廃院の憂き目に会いながらも、明治 9 年に公立静岡病院（当初は県立）として屋形町で再スタート、明治 15 年には、安倍・有度二郡の郡立となり、明治 22 年の静岡大火後、静岡市制にともなって市立病院として復興しました。昭和 15 年 1 月 15 日の静岡市大火により、病院は焼失し、応急病棟は、さらに昭和 20 年 6 月の空襲で、灰燼に帰しました。仮病院を経て、昭和 26 年 11 月追手町の現在地に、建築再開された後、改築・新築を重ね今日に至っています。その時々々の出来事に翻弄されているように見えな

がら、またよみがえることができたのは、なぜか。それは、この静岡の地に、医療という事業が必要だ、そしてそれを行うための人や土地や建物が必要だと考えて、それを合議により決する市民が存在したからです。

世は移る、人も移る。しかし、変わらないものがあるとすれば、それは、その時々々の人の思いの中にこそ、不易なものがあるということでしょう。今また、未曾有の少子高齢化・人口減少する社会をみすえて、変わるもの、変わらないもの、そして変わるべきではないものはなにか、みなさんとともに考え、取り組む時代だと思えます。

独法化特別企画

静岡市民「からだ」の学校（第 5 回）

— 少子高齢化、激動の時代を生きる智慧をもとめて —

2016 年 4 月 24 日（日）14 時～16 時 15 分
グランシップ 11 階会議ホール「風」

特別講師として、人口構造と医療政策の第一人者、政策研究大学院大学教授 島崎謙治先生をお迎えして、これからの医療・地域政策、保険制度のあり方等についてみんなで考えます。ぜひご参加ください。詳細は院内掲示、病院ホームページでご案内します。

科名	月	火	水	木	金
血液内科	岩井一也	前田明則	前田明則 (1・3・5 週) / 岩井一也 (2・4 週) 午前・予約のみ	岩井一也	前田明則
腎臓内科	嶋田靖司 (午前) / 白鳥君利 (午後)	松本芳博	嶋田靖司	野島陽一	松本芳博
腎臓病予防看護外来	—	第 2・4 週のみ	—	—	—
腹膜透析外来	—	午後のみ	午後のみ	午後のみ	午後のみ
高血圧外来	嶋田靖司	脇 昌子	杉山美帆	朴 貴典	松本芳博
内分泌・代謝内科	1 診 朴 貴典 2 診 児玉 舞	脇 昌子 清水洋佑 (午前) / 杉山美帆 (午後)	杉山美帆 朴 貴典	朴 貴典 柿栖奈保子	脇 昌子 杉山美帆
緩和ケア外来 (予約のみ)	—	岩井一也 (1・3・5 週のみ)	—	—	岩井一也
消化器総合センター					
消化器内科	初診 黒石健吾 1 診 高橋好朗	近藤貴浩 田中俊夫 (午前) / 濱村啓介 (午後)	星野勝一 / 河合 歩 小柳津竜樹	奥村大志 小柳津竜樹 (午前) / 高橋好朗 (午後)	堀谷俊介 田中俊夫
	3 診 濱村啓介 (午前)	濱村啓介 (午前)	黒石健吾 (午前)	星野勝一 (午前) / 堀谷俊介 (午後)	近藤貴浩 (午前)
	4 診 —	河合 歩 (午後)	—	—	奥村大志 (午前)
消化器外科	1 診 宮下 正 2 診 小林敏樹 3 診 杉山朋大	橋本洋右 上田 翔 交替	前田賢人 川守田啓介 交替	藤本康弘 石黒義孝 米沢 (9 - 12 時) / 橋本 (12 - 15 時)	米沢 圭 高柳智保 交替
スキンケア看護 (ストーマ) 外来	—	1・3 週、午前・予約のみ	—	—	—
食道・胃外来	—	—	午前・午後	—	—
呼吸器内科	1 診 藤井雅人 2 診 佐野武尚 3 診 渡辺綾乃	野末剛史 山田 孝 柴田 洋 大嶋智子	柴田 洋 野末剛史 渡辺綾乃	藤井雅人 山田 孝 阿部岳文 大嶋智子	柴田 洋 佐野武尚 阿部岳文
禁煙外来 (予約のみ)	午後のみ	午後のみ	午後のみ	午後のみ	午後のみ
呼吸器外科	1 診 千原幸司 2 診 玉里滋幸	—	千原幸司 野口未紗	—	玉里滋幸 野口未紗
ハートセンター					
循環器内科	初診 1 渡邊祐三 初診 2 交替 1 診 縄田隆三 2 診 細谷奈津子	村田耕一郎 交替 小野寺知哉 (紹介) 表真由子 (1・3・5 週) / 三竹啓嗣 (2・4 週)	小野寺知哉 交替 村田耕一郎 児玉圭太	竹内亮輔 交替 渡邊祐三 杉山博文	縄田隆三 交替 竹内亮輔 影山茂貴
心臓血管外科	1 診 島本光臣 2 診 寺井恭彦	中井真尚 ペースメーカー外来 (宮野)	三浦友二郎	山崎文郎 三岡 博	山崎文郎 (初診) 後藤新之介
外 科	1 診 宮下 正 2 診 小林敏樹 3 診 杉山朋大	橋本洋右 上田 翔 交替	前田賢人 川守田啓介 交替	藤本康弘 石黒義孝 米沢 (9 - 12 時) / 橋本 (12 - 15 時)	米沢 圭 高柳智保 交替
	4 診 交替	—	—	交替	—
乳腺外来	午前・予約のみ	午前・予約のみ	午前・予約のみ	—	午前・予約のみ
そけいヘルニア外来	午前のみ	—	—	—	—
脳卒中センター					
脳神経外科	1 診 深澤誠司 2 診 —	深澤誠司 原 秀	深澤誠司 武井啓晃	原 秀 竹中俊介	竹中俊介 —
神経内科	木村公俊 (非常勤) (初診は 11:00 まで)	—	交替 (初診は 11:00 まで) 陣上直人 (非常勤) / 奥田真也 (非常勤)	—	陣上直人 (非常勤) (初診は 11:00 まで)

外来担当医表 ①

科名	月	火	水	木	金
整形外科	初診 交替 1 診 2 診 3 診	南波 (1・3・5 週) / 佐野・萩原 (2・4 週) 澤田智一 森岡 聡	澤田・井出 (1・3・5 週) / 森岡 (2・4 週) 青木健太郎 佐野倫生 南波光洋	交替	平松 (1・3・5 週) / 青木 (2・4 週) 井出浩一郎 萩原和弘 —
腰痛・脊椎外来 股関節外来 ギプス外来 手・末梢神経外来 腫瘍外来 膝・足外来 肩・肘スポーツ外来			午後・予約のみ 午後・予約のみ 午後・予約のみ		午後・予約のみ 午後・予約のみ 午後・予約のみ 午後・予約のみ
口腔外科	1 診 2 診 3 診	長谷川和樹 / 野里女明代 宮本日出雄 原園陽介	長谷川和樹 / 野里女明代 宮本日出雄 原園陽介	長谷川和樹 / 野里女明代 宮本日出雄 原園陽介	長谷川和樹 宮本日出雄 原園陽介
小児科	1 診 2 診	酒井秀政 大井 正	五十嵐健康 鶴野裕一	村田乃理子 交代制 / (3 週、 応援医師 和田尚弘)	酒井秀政 鶴野裕一 五十嵐健康 大井 正
予防接種 乳児健診 小児アレルギー外来 小児内分泌外来 学童外来	毎週、午後・予約のみ	4 ヶ月・10 ヶ月 (毎週、午後・予約のみ)	1 ヶ月 (毎週、午後・予約のみ)	午後・予約のみ (酒井) 3 週午後・予約のみ (上松あゆ美) 午後・予約のみ	午後・予約のみ
産婦人科 妊婦健診・再診	神藤 (1・3・5 週) / 熊澤 (2・4 週)	米澤真澄	交替	水野薫子	交替
初診・再診	米澤真澄	水野薫子 / 熊澤理紗	交替	神藤里枝	交替
不妊外来 (初診)	—	水野薫子 (午後)	—	水野薫子 (午後)	—
泌尿器科	1 診 2 診 初診	松田 歩 新垣隆一郎 後藤修平	後藤修平 野口哲哉 松田 歩	新垣 (1・3・5 週) / 野口 (2・4 週)	松田 (1・3・5 週) / 後藤 (2・4 週) 野口 (1・3・5 週) / 新垣 (2・4 週) 野口 (2・4 週) / 新垣 (1・3・5 週)
スキンケア看護 (ストーマ) 外来	—	2・4 週、午前・予約のみ	—	—	—
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1 診 2 診	池上 聡 桂 裕紀	藪内 咲 —	池上 聡 濱口清海 桂 裕紀	藪内 咲 —
音声外来 甲状腺外来 頭頸部腫瘍外来 アレルギー性鼻炎外来	午後・予約のみ		午後・予約のみ 午後・予約のみ	午後・予約のみ	
眼 科	1 診 2 診 3 診	交替、初診、紹介のみ 井上 亮 櫻井美晴 堀井崇弘	交替、初診、紹介のみ 井上 亮 櫻井美晴 井上志帆	井上 亮 櫻井美晴 堀井崇弘	井上志帆 櫻井美晴 堀井崇弘
皮膚科	初診 再診	富田浩一 栗山幸子	田村愛子 富田浩一	栗山 (1・3・5 週) / 富田 (2・4 週)	鈴木陽子 (受付は 11 時まで) — 田村愛子
形成外科	三倉文子	—	三倉文子	—	青山昌平
レーザー外来 (予約のみ)	—	—	14 ~ 15 時	—	—
リハビリテーション科					
放射線治療科	池田 格	池田 格	池田 格	坂中克行 (非常勤)	池田 格
精神科 (院内紹介のみ)	—	市川太祐	中村幸治	—	—

外来担当医表 ②

変更があった箇所 ← 前号より変更があった箇所は、この表示になっています
↑ 緑色の斜め文字

外来1フロビーを ご案内します

- 西館1フロビー案内 ■ 外来受診のながれ
- 2月1日よりの院外処方開始にともない、西館外来1フロビーのレイアウトと外来受診のながれが一部新しくなりましたのでご紹介します
- 地域医療支援室より「病診連携とは」
- 西館1F地域医療支援室より、病院と診療所を結ぶ「病診連携」についてご紹介します

受診のながれ



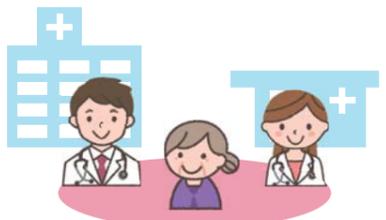
地域医療支援室より

病診連携とは

病診連携とは、病院と診療所がそれぞれの役割を分担し、お互いに連携しながら医療を提供することです。

診療所（かかりつけ医）は患者さんの日常の健康管理を行い、より精密な検査や入院治療が必要と判断した場合に静岡病院のような病院の専門医に紹介し、病院は患者さんの治療を進めていきます。また、患者さんの病状が安定しましたら、診療所（かかりつけ医）にお戻しし、日常の健康管理をお願いしていきます。

このように、病診連携とは、診療所（かかりつけ医）と病院が連携して患者さんの健康管理や治療をすることで、患者さんに安心な医療を受けていただくものです。



西館1F ロビー

